

SUMH News Letter

カンボジアと日本の地域精神医療

SUMH 理事長 青木 勉

おめでとうございます。今年も宜しくお願ひ致します。SUMHは現在、シェムリアップのメンタルヘルスリハビリテーションセンターでの活動に加え、アンコールチュム病院、そして昨年からクラーラン病院での外来診療が加わり、カンボジアの地域に根付いた活動が広がりを見せてています。

私は、この会に関わり12年が経過しました。皆様もご存知の通り、カンボジアは、現在も精神病床を8つしか持っておりません。対して、我が国には、人口万対27の精神病床があります。私は、SUMHの活動を続ける中で、入院に頼らない精神医療を実践しようと思うようになりました。私の勤務する千葉県の旭中央病院神経精神科・児童精神科には、2002年には精神病床が250ありましたが、精神科救急、アウトリーチサービス、ハウジングサービス、クロザビン等の治療抵抗性精神疾患の治療を整備充実させる事により、現在50まで減らすことが出来、来年度には42になる予定です。この地域移行モデル『旭モデル』は、SUMHでのボランティア活動から生まれたものです。今年も、SUMHで培った経験と知識を生かして、地域精神医療に寄与して行きたいと思っています。会員の皆様の変わらぬ御支援、御協力を宜しくお願ひ致します。

I カンボジア SUMH訪問記

岐阜大学保健管理センター 西尾 彰泰

編集後記

篠原慶朗

発行:途上国の精神保健を支えるネットワーク
Supporters for Mental Health;SUMH

I カンボジア SUMH 訪問報告

岐阜大学保健管理センター 西尾 彰泰

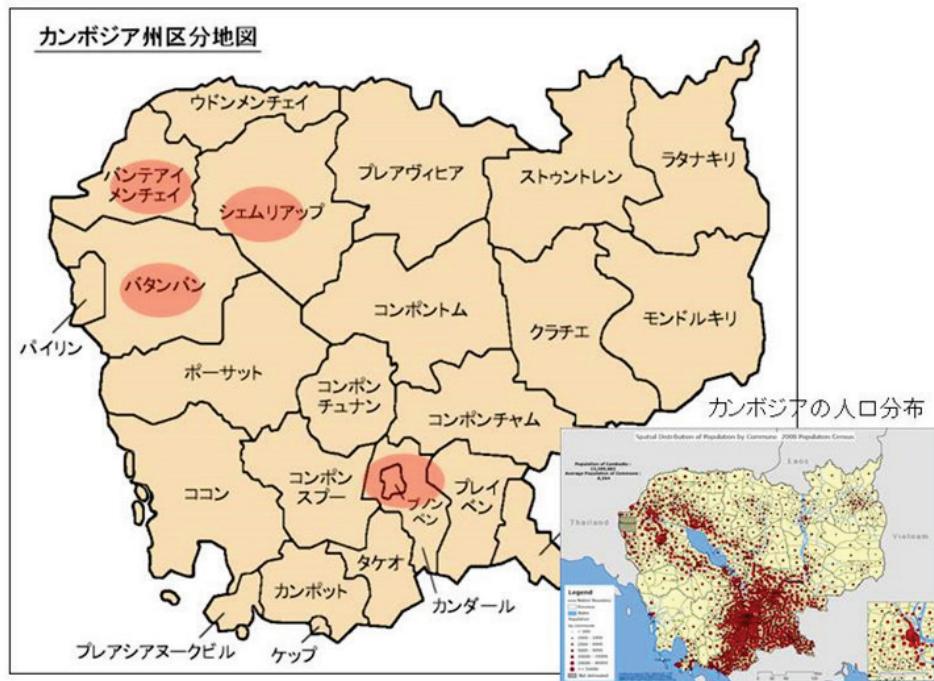
はじめまして。私は、岐阜大学保健管理センターの西尾彰泰と申します。今回はじめて、SUMHが支援しているシェムリアップ州の精神保健の現状を見て参りましたので、ご報告します。まず、最初に私の自己紹介からはじめますが、私自身は精神科医です。もともとは（今も看板を下ろしたつもりはありませんが）、フランスの精神分析が専門で、フランスの大学で「ラカン」を勉強していました。ところが、色々なことがありますて、2010年より、名古屋大学の国際開発研究科の大学院に入り、国際開発の勉強をしております。医学部の国際保健講座ではなく、国際開発研究科に入ったのは、単によくわかっていないなかただけのことなのですが、医療に限らず、経済開発や教育開発、社会開発など、様々な方向から途上国に関わる視点を持てたのは良かったと思っています。その関係で、先輩らが立ち上げた、ケニアで小規模の経済開発を行っているNPOや、ケニアで医療キャンプを行っているNPOなどに参加するようになりました。SUMHさんのことを知ったのは、2010年に名古屋で行われた国際開発学会で、SUMHさんがブースを出しておられ、10年間の活動報告集を販売していたからです。

当時、私は国際開発の学生といつても精神科臨床医でしたので、まだ自分がフィールドに出るイメージが湧かず、研究テーマも（フランス精神分析の研究者らしく！）、産業革命の影響で都市環境が一気に悪化した1850年頃から1930年頃までの、フランスを中心としたヨーロッパにおける近代化と衛生概念の変遷といったマニアックな文献研究を行っていました。しかし、いつか自分もフィールド研究をしたいものだと、SUMHの活動報告集を買って、ずっと記憶していました。その後、国際開発研究科で広がったネットワークを活かし、いろいろなフィールドに関するようになり、2012年11月に岐阜大学保健管理センターに赴任したことを機に、フィールド研究を行うことが可能な環境になりましたので、さっそくSUMHさんに連絡をして、今回の訪問へと至ったのです。快く、受け入れて下さったSUMHの方々には改めてお礼を申し上げます。

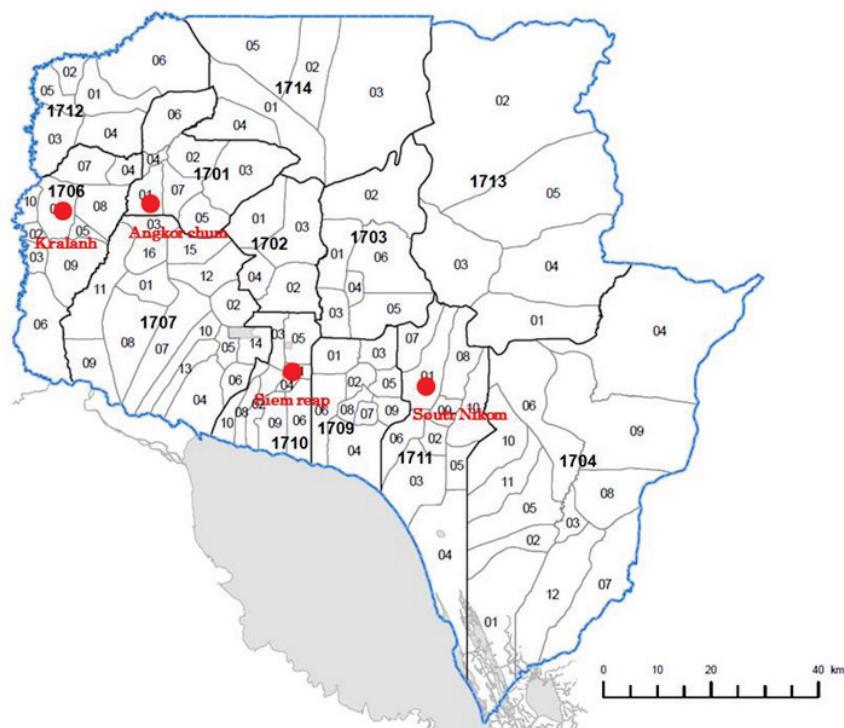
次に、多くの関係者がご存じとは思いますが、カンボジアSUMHの現状をまとめます。現在、カンボジアで日常的に精神科診療が受けられる病院は4つであり（図1）、その1つがSUMHの支援するシェムリアップ州病院です。いずれの病院も精神科の病床は持っていないません。また、シェムリアップ州には、シェムリアップ州病院に加えて、Angkor Chum, Kralanh, Sotr Nicomの3つの群病院があり（図2）、図3で示すように、SUMHは、3つの群病院のうち2つで月2回の外来診療と訪問診療、Key persons meeting（図4）を

2014年（平成26年）1月23日（原則的に季刊）SUMH ニュースレター第41号
行っています。もう1つの群病院からも依頼はあるものの予算不足で人を送ることができない状況です。

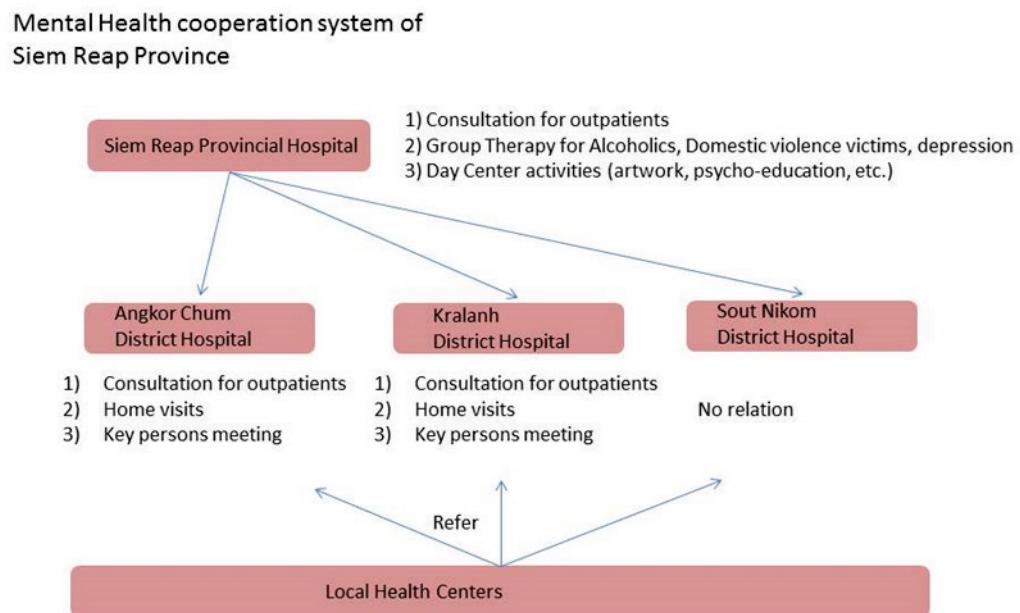
カンボジアで精神科を有する病院は、プノンペン、シュムリアップ、バタンバン、バンテアイメンチエイの4つ（うち、バンテアイメンチエイは毎日ではない）。精神科病床はゼロ。



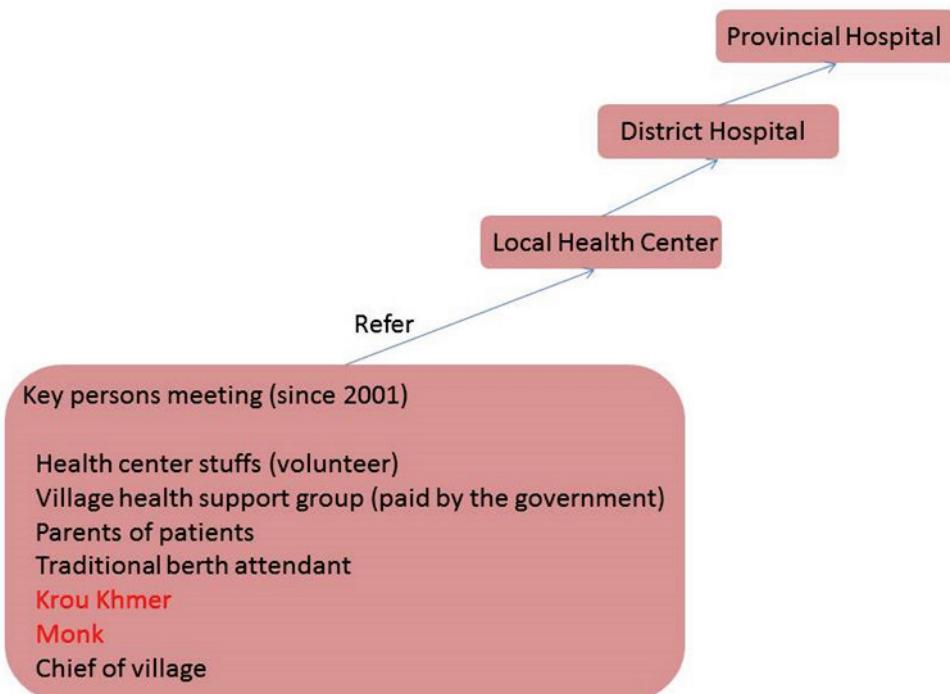
(図1 カンボジアの州区分と州病院の位置)



(図2 シュムリアップ州の区分と群病院の位置)



(図3 SUMHとシュムリアップ州の病院の関係)



(図4 Key persons meeting の仕組み)

Key persons meeting とは、ピサル氏の発案によりシムリアップ州病院の管轄区で、2001年より始められたもので、ヘルスセンターのスタッフ、ヘルスサポートグループのスタッフ、家族会、伝統的産婆、クロウクメールと呼ばれる伝統的治療を行う施術者、仏僧、村長からなる会議です。月に1回行われるヘルスセンターの会議に便乗して行われています。通常、カンボジアでは、患者が精神病状態に陥ったとき、クロウクメール、あるいは仏僧のもとに連れて行かれます。クロウクメールについては詳細不明ですが、仏僧のもとでは、僧侶が念仏を唱えながら患者の頭に唾を吐きかける、患者に水をかける、バナナの葉で叩くなどという施療が行われています。多くの地域では、これら施術が奏功しなかった場合、そこで終わってしまうのですが、SUMHが関わっている地域では、Key persons meeting で普段より情報交換を行い、信頼関係を築いているため、彼らの治療で効果が見られなかった場合、速やかに地域のヘルスセンター、ヘルスセンターから群病院へと紹介されているのです。伝統的な施術を否定せず、施術者と良好な関係を築くことを選択したことが、今のカンボジアの現状に適合していたのでしょう。Angkor Chum, Kralanh の2病院で外来診療を開始する際に、Key persons meeting を同時に始めていたため外来診療開始直後から、多くの患者が受診することができました。これは発展途上国的精神科外来ではきわめて珍しい事例であると思われます。

今回の訪問では、シムリアップ州病院に加えて、Angkor Chum, Kralanh の外来診療と、近隣への訪問診療に同行しました。特に、Kralahn を訪れたのは日本のSUMHのメンバーでは、私が最初らしいので状況を報告しますと、非常に狭く、暗い部屋を2つ借りて行っておりました。また、Angkor Chum と比べて、都市部にあるため患者数も多く、1日に30人ほどを診察していました。こちらを担当する医師は、既に定年後であり、無理にお願いしているという様子でした。こちらの医師は英語を喋ることができないので直接意思疎通を行うことはできませんでした。外来診察は、どちらも昼過ぎに終わるので、その後、昼ご飯を食べてから訪問診療に行きました。1日に5-6件回るのですが、一番驚いたことは、統合失調症患者2人が住む、グループホームがあったことです。カンボジアには精神科病床がありませんので、こうした中間的な施設が、より必要とされるのかもしれません。訪問診療は、田舎風景をずっと見ながらの車移動でとてもハッピーな気持ちになれました。私が行った時期は、ちょうど雨期が明けた時期でしたので、軒先で糞を乾燥させている風景、水辺で魚取りをしながら遊んでいる子どもたちを見ながらの移動でした。

みなさんに、カンボジアの環境や医療に直接触れていただきたいと思い、平成26年3月には同地でのスタディツアーを企画しております。奮ってご参加いただければと思います。



(Angkor Chum Hospital)



(Kralanh Hospital)



(統合失調症患者さんが住むグループホーム)



(田舎の風景)

SUMH Cambodia*Actual Address;*

Mental Health Rehabilitation Center,
in Siem Reap Provincial Hospital,
Mundol Moi, Siem Reap, Cambodia

Postal Address:

P.O.Box 93102 G P O Siem Reap Angkor, Cambodia

**SUMHの会員として、また募金によって
一緒に途上国の精神保健を支えてください。**

【年会費】一般 10,000円 賛助・学生 5,000円

【会費・募金の振込先】

銀行振り込みの場合

銀行名：千葉興業銀行 旭支店

口座名：途上国の精神保健を支えるネットワーク

理事 青木 勉

口座番号：普通 1031181

郵便振替の場合加入者名：途上国の精神保健を支えるネットワー
ク

口座番号：00170-2-535294

郵便振替は振替用紙に、住所・氏名・Tel & Fax・E-mail・
会費と募金のいずれか・SUMH へ一言を明記の上、お
振り込み下さい。

SUMH日本事務局

〒130-0013 東京都墨田区錦糸3-5-1

錦糸町北口ビル

TEL 03-3812-0736

HP: <http://sumh.org/>

編集後記

昨年度は多くの皆様に月例理事会にご参加いただき、多くのアドバイスを頂くことができました。2014年は皆様から頂いたアドバイスを生かしながらSUMHが今まで積み上げてきたことに更に磨きをかけて活動基盤を整えていきたいと考えています。今回の西尾先生の現地リポート報告はとても素晴らしい、これから活動展開していく上で必要な情報に溢れていると思いました。皆様、平成26年度もSUMHをよろしくお願ひいたします。最後に皆様のご健康とお幸せを祈願してご挨拶とさせて頂きます。

篠原 廉朗

ご寄付のお願いです

「年賀状等の、書き損じはがきを寄付して下さい」
皆様が年末作成した際の、年賀状等の書き損じはがきを寄付お願いします。支援活動に有効活用させていただきます。

**第4回カンボジアスタディツア****参加者募集中です！**

H Pから申込み書がダウンロードできます。途上国的精神保健に興味関心がある専門職の方、学生の皆様のご参加をお待ちしています！

第4回 SUMH カンボジア・スタディツア**カンボジア×精神保健×地域医療**

**2014年3月2日(日)から6日(木)の4泊5日間コース
参加費 70,000円(航空券別、往復の航空券は60,000~90,000円程度です)**

日本で唯一の“精神科領域”の国際保健スタディツア
地方で生活している人との交流などコミュニケーションを重視
世界的観光地アンコールワットを有するシムリアップでのスタディツアです
アンコール遺跡群、水上生活で有名なトンレサップ湖も観光します

精神科で働く医師、臨床心理士、精神保健福祉士、看護師・保健師、学生さんにお勧めです

お申し込み・お問い合わせは … SUMH 途上国の精神保健を支えるネットワーク 担当:大参
電話:03-3812-0736 FAX:03-3812-0376